

安八の昔話

145

西叡塚地区

文 日本児童文学者協会会員

小森 波鐘子

収穫今昔

実りの秋、稲穂が重たそうに頭をたれてくる。

昭和初期の頃、脱穀は穂先をスッコキにはさんで力まかせに引つぱる、籾を取り離れたんやさ。手間暇かけた力のいる仕事やった。しばらくして足踏み式の脱穀機が普及し作業がはかどるようになったんやがいくらもせんうちに箱型に姿をかえた脱穀機に発動機をつけ加え、エンジンがかかるまで手でまわす。エンジンがまわりだすと油のおいびがきつかったわな。籾が押し出されるように出てる口元には、手づなのついたびくにかわって南京袋が使われるようになった。



刈り取った稲を稲架にかけたり、運び込んだ籾を藁の上で天日干ししたりして乾かしたんやさ。牛や馬の力を借りて耕したたんぼは耕耘機にかわり、稲刈り鎌はコンバインになった。田植も田植機が活躍しすべて手作業だった農家の仕事は機械化された。

田んぼに大きな機械が入るとあつと言つ間に刈り込み通り過ぎた後は細かく刻まれた藁が広がっていた。

藁を切った押し切りや家の前にいっぱい広げた藁のオンパレードはもう見ることはない。

※スッコキ・・・インターネットで調べました。

協力者

区長

末松 勝美さん(73歳)

岩田 豊さん(84歳)

坂 孝男さん(83歳)

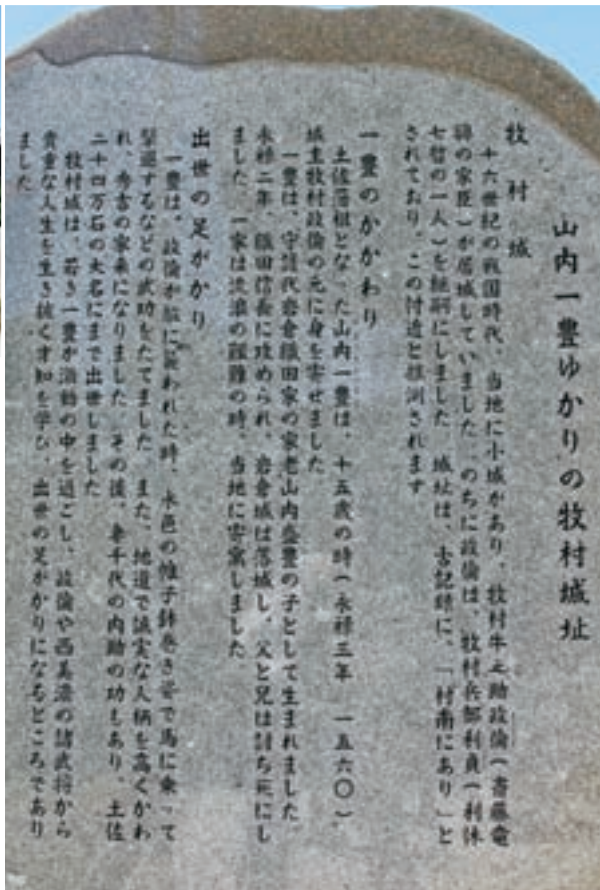
堀 進さん(享年78歳)

助言を下された方(74歳)

ちょっと寄り道『安八町』

山内一豊ゆかりの地・牧村城跡(安八町牧地内)

山内一豊ゆかりの牧村城址



若き一豊が激動の中を過ごしたこの地で

歴史の息吹を感じてみませんか

牧村城は、「新撰美濃志」「濃州徇行記」などに『村南にあり』と記されています。

場所ははっきりしていませんが、住時を偲ぶため、安八町牧地内の円長寺に当時を記録する石碑が建てられています。

また、利休七哲の1人に数えられている武將茶人 牧村兵部の居館でもありました。ぜひ、お立ち寄りいただき、町の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

◆円長寺

安八町牧1386 (☎64・2442)